

立命電友会

「学生生活を振り返って2019」

オムロン サイニックス株式会社
代表取締役社長 諏訪 正 樹
(平成6年院修了)

目次

- P1 …… 巻頭言
- P2 …… 新任のご挨拶
- P3~4… 卒業生からの投稿
- 在学生からの投稿
- P5~6… 学生会報告
- P6~8… 同窓会だより
- P8 …… 同窓会開催案内
- P8 …… 学系だより
- P8 …… 計報・事務局便り

現場に出てセンサの調整をするところまで、非常に多様な場で技術開発に携わることができたのは今となっては貴重な財産です。

画像センシングは、画像センサ（主にカメラ）から入力された信号をデジタル処理し、意味のある情報（人や車の挙動や工業製品の品質の定量化など）を抽出する一連の技術体系から成り立っています。

「外界の光がセンシング対象に反射しセンサを経由してデジタル信号に変換され計算機で処理される」までの過程の土台には、物理学、数学、電気工学、電子工学、情報処理などの多様な学問体系が存在し、これらを広くかつ深く理解することを技術者に求めるといふ意味で難しくもありやがちな技術領域であるといえます。実はここ数年、電気電子工学科学部1回生の学生さんに講演する機会をいただいているのですが、「この学科で学ぶカリキュラムの8割以上は今でも活用している」というようなリアルな話もできる

2008年頃に技術系管理職に直接プログラムを書いたり計測システムの設計をしたりという業務は皆無となり、複数の研究開発プロジェクトの技術統括に専念する立場となりました。ちょうどこの

頃に、学会やセミナーでの技術講演や大学院での講義の機会も増えてきたのですが、この機会に「センシングとは？」ということを変更して考えるようになりました。ところがセンサあるいはセンシングは世の中に定義があるわけでもない（センサという単語一つとっても例えばJISの区分によっては定義が異なります）という事実に愕然とし、自らの経験も踏まえて新たに再構築することにしました。このときに非常に参考になったのが、苧屋公明先生の書かれた「計測工学」（オーム社書店）です。

苧屋先生の講義は、私にとって学部時代における最も難解な講義のひとつであり、恥ずかしながら当時はおそらくこの本の2割も理解できていなかったのですが、卒業して15年以上経ち、ようやくそのほぼ全容を理解することができ、そのおかげもありましてセンシングという技術を改めてじっくり見直すことができました。今となっては「計測はサイエンスである」とと看破された苧屋先生の慧眼にはただただ敬服する一方で、学生時代に深入りしなかった（できなかった）我が身の實力を悔いるばかりです。

2018年4月からはオムロンの研究子会社であるOMRON SINC X（オムロンサイニックス エックス、以下OSX）の代表取締役社長を仰せつかりました。OSXはAIやロボティクス、センシングなどの技術革新が世の中にどのようなインパクトを与えるか？という点を起点に事業を創造するための近未来デザイン研究所です。会社名にある「SINC」という（謎の？）頭文字は、オムロ

ンの創業者である立石一真氏が1970年に発表した未来予測論の名称であり、科学と技術と社会の間には円環論的な関係があり、異なる2つの方向から相互にインパクトを与え合うことで、スパイラルに発展していくという考え方もとづき未来を眺めたものです。これは予言でも何でもなく、人間の進歩志向的意欲にもとづく社会発展のメカニズムについて述べたものなのですが、結果的には1980年代以降の情報化社会や現在のIoT社会の世界観を見事に予見しており、私自身も入社早々SINCに出会い非常に驚いたことを鮮明に覚えています。

OSXのメンバーは大学の教員や企業の研究員出身で占めており、出身も日本国内のみならずドイツや中国、オーストラリア、パキスタンなど世界中から多様な人材が集まってきており、このような場から今後どのような成果が出るかが私自身にとっても非常に楽しみであり、ワクワクする毎日を送っています。

とはいいつつも、世の中にはまだまだ多くの社会課題が残っており、これらを技術革新によって解決するということ使命を一日でも早く実現すべく、本学で学んだことを土台に日夜研鑽を積み続けていく所存です。

最後になりましたが、電友会への貢献が十分とはいえない小職に会報への執筆という機会をいただいたことに深く感謝いたしますとともに、拙文へのご容赦何卒お願い申し上げます。今後の立命館大学のさらなる発展および立命電友会の隆盛を祈念いたしまして拙稿の締めとさせていただきます。



気がつけば立命館大学の理工学研究科博士後期課程を修了して22年目に突入しようとしています。実はこの「22」という数字を「9」に変えただけの先頭文で始まる原稿を立命電友会会報に掲載させていただいたのが2005年であり、それからさらに14年の月日が流れるに至りました。この間にもさまざまな業務を通じて多くの学びがありました。実はその源流は本学電気工学科での学びにあったということに（卒業して20年以上も経ち今更ながらではあり

ますが）改めて気付かされた次第です。学部時代の回顧や研究から学んだことについては前稿で紹介させていただきましたことでもありますので、今回はその後（2005年以降）の業務と関連づける形になった（学部から博士後期課程修了までの）9年間で得た貴重な財産について振り返ってみたいと思います。

1997年に博士後期課程を無事修了し、その年にオムロン株式会社に入社しました。入社以来、一貫してコーポレートR&D（research and development）部門にて画像センシングの研究開発に従事し、社会インフラとしての交通流センサ、ファクトリーオートメーション向けの視覚センサや基板検査装置など数々の商品化に紐づく研究開発を経験してきました。コーポレートR&D部門に所属しているとはいえ、基礎研究か

新任のご挨拶

電子情報工学科
准教授 孟 林

准教授に昇進のため、立命電友会から記事の執筆を依頼されました。振り返ると、今回は三回目の依頼です。一回目は2013年頃、助教として着任したときのこと、二回目は2017年頃、助教から講師になり、助教として退職したときのことです。「やはり、年の過ぎるのは速いですね」と感じています。もつと、振り返ると、2002年、立命館大学理工学部・情報工学科（現在情報理工学部）に入学してから、既に17年が経ちました。17年間を経て、私は立命館大学をあまり知らないごく普通の留学生から、立命館大学の教員になりました。昇進後に、1回生のときに数学の担当の先生から「よく生き残ってきたね」と祝いの言葉を頂きました。この言葉の重さは、准教授まで辛さを十分に表していると思います。ここで、今まで、私を指導して下さった先生方、特に私を育てて下さった恩師の小柳滋先生、同じ研究室で助手から講師まで私を指導して下さいました山崎勝弘先生と泉知論先生に感謝いたします。

非常に幸運で、いろいろな先生から温かい言葉とご支援を頂いたことで、ここまで来ました。また、学生達は非常に優秀で人情味があります。一緒に楽しく研究し、楽しく国際会議のために海外出張したりしていました。ここで、単なる国際会議参加ではなく、私はどうすれば学生の研究のモチベーションを引き出し、どうすれば学生達が外国に関する恐怖感（心配感）を減らし、どうすれば学生達が語学に関する興味を引き出すことが出来るかを学習させることができました。学生の皆さんは、基本的にみんなが満足できる就職先へ就職し、人生を楽しんでいるみたいです。教員としてはこれが何よりもうれしい事です。

今年、やっと自分の研究室を持つこととなり、5名の留学生大学院生と5名の日本人の学部生からのスタートとなります。非常に忙しいスタートですが、充実した毎日です。学生達は非常に優秀で、入学後僅か4ヶ月間の研究で、岡山大学で開催された第18回情報科学技術フォーラムに論文を投稿し、研究発表を行いました。また、その他の国際会議にも複数の投稿と研究発表を行いました。

さらに、研究室は一つの国際会議を立命館大学BKICに招致することに成功し、8月にBKICで開催しました。来場者は80人以上で、アメリカ、イギリス、インド、中国、日本などの国から75件の論文を採録しました。そして、現在、イタリアで開催する会議に研究発表準備を行っているところで、時差調節のために、この挨拶をさせて頂いております。

電子情報工学科
准教授 大倉 俊介

2019年4月より電子情報工学科に准教授として着任いたしました。

私は奈良県立畝傍高等学校を卒業後、大阪大学電子情報エネルギー工学科に入学しました。学部3年生までは電子にも情報にもエネルギーにも、特段の興味を持っていませんでしたが、学部4回生に谷口研二先生の研究室に配属されてから、価値観が一変しました。谷口研究室は、株式会社シンセシスという産学連携のベンチャー企業に参画していました。同社は、先端的かつ実用的な研究開発、産業界への貢献、そして大学院生の設計スキルの向上ならびに経済支援を目的として設立されました。大学院生がベンチャー企業で働き、報酬を得ることで、学費・生活費の心配がなくなり、博士後期課程へ進学しやすくなる、という狙いがあったそうです。私は学部4回生から同社で働き始め、携帯電話のカメラに用いるCCDイメージセンサー用アナログ・フロント・エンド回路を設計させて頂きました。研究室に配属されるまで世の中の便利なものを利用する立場だった自分が、製品設計に関わり、世の中に価値を与えられる立場に移ったことでエレクトロニクスの虜になりました。

その後、博士後期課程まで進学しましたが、CCDイメージセンサーからCMOSイメージセンサーに時代が移るなかで、アナログ回路だけでなく、イメージセンサー全体に興味があがってきました。ちょうどその頃に、株式会社Posapsにスタートアップのタイミングで声をかけて頂き、大学の研究を中断して就職しました。同社では、米国の大手企業との共同開発を通じて、CMOSイメージセンサーの立上げを経験させて頂き、イメージセンサーに関する一般的な知識を学ぶことができました。最初の製品開発が一段落した時点で、大阪大学に特任研究員として戻り、中断していた研究を仕上げました。

Posapsでは製品化の主導は共同開発先企業にあつたため、次に私に必要なことは、イメージセンサーの製品化における手順を学ぶことでした。そのために、ルネサスエレクトロニクス株式会社に転職しました。アナログ回路の研究開発部門への配属でしたが、イメージセンサーの事業部と密接に関わりながら、大企業の組織の中で、製品化に至る様々な経験をさせて頂きました。

次に、外資系スタートアップ企業であるブリルニクス株式会社に声をかけて頂きました。学会活動に積極的な同社は、将来的に大学に戻りたいと漠然と考えていた私にとつて理想的な環境でした。同社では、これまで技術を培ってきた回路設計に加え、画素のデバイス設計を経験させて頂きました。さらには、立命館大学の藤野毅先生がリーダーを務められる国家プロジェクトにも参加させて頂き、イメージセンサーにハードウェアセキュリティを導入することで、技術の幅を大きく広げることができました。

そして、この度、幸運な事に立命館大学の教員として、新しい目標に踏み出すことができました。これまでの自己キャリアを能動的に築いてきた経験と、イメージセンサーに特化して横断的に培った技術を、将来の日本のエレクトロニクスを背負う学生達に伝えていきたいと考えています。また、奔放に道を歩んで来た私に、常に最大限の自由裁量と最大限の支援を与えてくださった恩師の谷口先生に少しでも近付けるように努力し、一人でも多くの学生がエレクトロニクスの虜になるよう働き掛けて参ります。教員として新人ではありますが、教育と研究に尽力し、立命館大学に少しでも貢献したいと思っております。皆様のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

「立命館大学を卒業して思うこと」

横田 裕 (昭和44年院修)



「グローバルゼーション・フォーラム 2007 in 京都」ゴルパチョフ元大統領と(ゴルパチョフ元大統領の右が横田氏)

57年前、20歳で電気工学科に入... 修士課程に進学し、研究室は...

修士論文を書き上げて博士課程... 1970年安保闘争で学園紛争に陥り、学内...

渉を任せられ、活躍することが出来... お陰様で、日系企業として...

幸いにも、シカゴにて国際電気... 電子学会で辿々しい英語を米語で...

その後、シンガポール国の販社... 社長として赴任し、帰国後56歳で...

特に、2007年11月15日温暖... 化ガス削減京都議定書を記念して...

ロシアからゴルパチョフ元大統... 領閣下、アメリカ合衆国からは...

歓迎会など執り行われました... ゴルパチョフ閣下と終日歓談でき、...

この記念フォーラムが機縁と... はじめに

なつて、70歳で法人向け再生エネ... ルギーの太陽光発電所設立支援の...

平成から令和になり、それに相... 応しい方が旧制立命館第一中学校...

今年1月25日、奇しくも上京区... にある薄雲御所慈寿院でのお茶会...

最後に、末川博名誉総長が我ら... 卒業生に送られた「運・鈍・根」の立...

立命館大学大学院... 博士課程前期課程 宇野研究室 宮川 拓馬

はじめに... 私は2015年に理工学部電気

電子工学科に入学しました。今年... の3月には立命館大学を卒業し、...

当時、私が電気電子工学科を選... んだ理由は「電気系は就職に強...

気が持たず、4月から始まった... キャンパスライフは目に映るもの...

私の所属していたスキューバダイ... ビングサークルは関西の私立大学...

に越前、すさみ、石垣島、セブ島... パラオなど国内外問わず様々な海...

学業に关しましては、「何か形... に残る成果を上げたい」という思...

どは友人たちと議論を交わしなが... ら学習を進めました。そのような...

現在の私は近距離無線通信を利用... した二酸化炭素濃度測定センサの...

本会報への寄稿を通して私の大... 学生生活の原点を振り返ることが...

皆様に深く御礼申し上げます。ま... た、日ごろ切磋琢磨している研究...

済面や精神面での支えとなってく... れた両親に心から感謝いたします。

「大学生活からの学び」

立命館大学大学院
博士課程前期課程

久保(博)研究室

田中

優花

はじめに

私は、無線信号処理研究室(久保博教授)に所属し、海洋環境で移動体通信を実現するための、音波を用いた水中通信(水中音響通信)の研究を行っています。本稿では、学部生活の振り返りと、研究活動から学んだこと、今後の展望について述べたいと思います。**学部生活を終えて**

私は2017年に、工業高専から電子情報工学科に3年次編入しました。2年間の短い学部生活でしたが、学業でも課外活動でも、充実した毎日を過ごせました。

学業については、基礎的な内容を高専で学んだうえで、編入後はより具体的な内容に触れることができました。特に、通信や半導体に関する内容は編入してから初めて触れたものがほとんどだったので、毎週新鮮な気持ちで講義に参加していたことを覚えています。学んだ技術が実社会でどこに使われているのかなどの繋がりも知ることができて、さらに興味を持ちました。

学部生活で学業の他に力を入れたのが立命館大学放送局(RBC)での活動です。入学式後の新生会を歓迎する局員の姿に憧れた私は、編入後すぐにRBCに入局しました。発声練習にはじまり、司会やラジオの実践的な練習などに取り組み、楽しく活動することができました。さらに、3キャンパスすべての学園祭や硬式野球の立同戦、アメリカンフットボールの関学戦など、大きな行事にたくさん参加

できたことも思い出の一つです。ただ、RBCは、3回生の12月で引退することが決まっています。そのため10か月足らずしか在籍できず、学園祭の大きな舞台でMCを務めることなどはできませんでした。それでも、RBCの一員として活動したことで、学部生活をより実りあるものにできました。学業と課外活動の両立が忙しかった時期もありましたが、どちらも学部時代にしかできない経験ができたと感じています。

研究活動

私は現在、無線信号処理研究室(久保博教授)にて研究に取り組んでいます。3回生で通信に関する講義を受けるまでは触れたことがなかった分野でしたが、その講義や通信をテーマとした実験を通して興味をもち、久保研究室への配属を志望しました。

私の研究テーマは、音波を用いた水中通信(水中音響通信)の信頼性向上です。海中では電波が通じにくいので、代替として音波で無線通信を実現することが必須となります。しかし、水中での音速は光速と比較して20万分の1であるため、物体の移動に伴い伝搬環境が高速に変動するという課題が発生します。その結果、移動環境での水中音響通信は信頼性が低下することが課題であるといわれています。

そこで私は、伝搬環境の変動により生じる干渉を抑制するための干渉除去技術を研究しています。現在は計算機シミュレーションを用いて、提案する通信システムの有効性を検証しています。この検証結果をふまえて、本年の3月と6月に研究成果を学会発表しました。学会では、通信の専門家の方から多くの意見を頂き、充実したものとなりました。さらに学会発

表へ向けて、先生や先輩のご指導をいただきながら、資料の作成、質疑応答の対策などを行ったことで、自らの研究に対する理解をより深められたと感じています。今後に向けて

現在、計算機シミュレーションで検討している通信システムの有効性を海洋環境で実証し、その成果を国際学会で発表するのが、大学院生活での目標です。

また、研究発表の経験から、成果を情報発信することの重要性を感じました。将来は、メディア等を通して科学技術に関する情報を発信することに携わりたいと考えています。

「研究活動について」

立命館大学大学院
博士課程前期課程

富山研究室

白根

健太

はじめに

私は立命館大学理工学研究科電子システム専攻の博士前期課程に在籍しており、システムレベル設計方法論研究室(富山研究室)に所属しております。現在、近似乗算器の畳込みニューラルネットワークへの適用について研究を進めております。これから私の研究内容、研究生活について述べさせていただきます。

研究内容

現在、畳込みニューラルネットワーク(CNN)は深層学習の分野で高い精度の画像認識を可能とすることで知られています。一方でCNNは膨大な計算を要することが知られており、CNNを高いエネルギー効率で実現させる研究が盛んにおこなわれています。高エネルギー効率のCNNを実現

させることは小規模な機器での画像認識の実現につながり、様々な応用が期待されています。私はその中でもApproximate Computingという手法をCNNに適用させる研究に取り組んでおります。

Approximate Computingはアプリケーションに存在する誤差への耐性を利用し、回路を簡略化した低電圧で動作させたりすることにより高効率な回路を実現する手法です。これまで私は、CNNの画像認識モデルに様々な精度の乗算器を適用することで高い識別率を維持しつつ、効率の良い回路の設計を行いました。シミュレーションにより、元の画像識別率を保ちつつ回路面積を削減し、遅延時間を短縮させることができました。現在は改良したモデルを実際のハードウェアに実装させることを目指しております。

研究生活

研究室に所属してから専門分野の知識をつけたのはもちろんですが、研究のためのコミュニケーションが、研究のためのコミュニケーションから社会的なコミュニケーションまで様々なことを学びました。配属当初はメールでのやり取りの基本、目上の人への接し方などコミュニケーションをとるための手段を真つ先に学びました。それによって先輩方からのアドバイスを得やすい環境が整いました。研究室では普段の研究のほかに進捗ゼミを週1回、研究室のメンバー持ち回りで行う発表を行うゼミを週1~2回行っています。進捗ゼミは研究分野に近いメンバーのみでより専門的な情報の共有を行っています。発表ゼミでは英語の論文を要約しての発表と自分の研究テーマをまとめた研究発表を行っています。発表ゼミでは発表内容からスライドの体裁まで様々な角度から指摘をいただいております。さら

に、今年度から孟研究室と共同でゼミを行っており、より様々な角度から意見をいただくことができようになりました。これからも積極的に研究室内の意見を取り入れ、研究に取り組みたいと思います。

また、富山研究室は海外志向な研究室であり、以前から国際学会に積極的に参加しております。私は学部4回生の時に台湾の国際学会に参加し、口頭およびポスターでの発表を行いました。初めての学会であったため入念に準備に努めました。まず、専門分野に関する英語が不安であったため、想定できる質問や関連の専門用語について入念にインプットを行いました。また、研究の先輩方にポスターの構成など何度も指導を仰ぎ、発表練習もチェックしていただきました。準備の甲斐もあり、当日は口頭発表を滞りなく終えることができました。その後のポスター発表においても積極的に意見交換することができました。その結果、学会ではStudent Presentation Awardをいただきました。学部卒業時には研究活動最優秀賞を受賞しました。国際学会での発表は今後の研究に向けて大変良い経験になったと思います。今後も積極的に学会に参加し、学びを得たいです。

おわりに

ここまで改めて研究生活を振り返ることができました。このような機会をいただきました。立命電友会の皆様に感謝いたします。また、普段よりご指導いただいた富山宏之教授、諸先生方、および研究室の皆様方に感謝申し上げます。これからも研究を通じた経験から様々なことを学んでいきたいと思っております。

同窓会だより

立命電友会九州・沖縄支部
19回総会・懇親会開催

6月8日(土)に、令和元年度(第19回)の「立命電友会九州・沖縄支部」の総会・懇親会を開催しました。今年の見学会は、2019年9月22日(日)にオープンした博多駅から徒歩1分の好立地にある竣工間近からのホテル博多で開催しました。このホテルは、地下3階、地上13階、延べ床面積約29,000㎡、客室数209室のホテルです。「緑と水と光のホテル」をコンセプトに、豊富な緑を立体的に配置され、滝が流れ落ちるイメージは、九州の雄大な自然がモチーフになっています。夜間は建物全体のライトアップを行い、にぎわいが演出されています。博多・九州にお越しの際は、是非宿泊されてみては如何でしょうか。

見学会の後、当現場の担当技術者から、詳しい説明とステイホテルの施工に当たっての技術的難しさや人手不足や工程の厳しさなど苦労した説明を聞きました。

1時間半の見学後、昨年と同じKITTE HAKATA 6階の「銀座ライオン」で総会・懇親会を開催しました。本会に参加することは健康のパロメータである、と話される荒木様の乾杯の後、総会・懇親会を実施しました。最初の話は、荒木様より「立命館大学設立には国に納める「供託金」が必要であった為、当時の卒業先輩諸氏が寄付金や募金活動に奔走、50万円余り(現在金額で約2億円余り)を寄付され、これによりやっと大学として認可を受けることが出来た経緯や、現在は大組織化されて活動している立命館大学校友会(卒業生約37万人で構成)も設立する事となり現在の立命館大学が存続している」などの経緯をお聞きし、大変な苦労があったことを初めて知ることが出来ました。

校友会や電友会の催しへの参加者、特に若い人、女性会員の増員を図るにはどうしたら良いのか、魅力ある会にするにはどのようにするべきか、会員カードの発行、学校・校友会・立命電友会からの情報の発信、小さな団体を組織し気楽に集まれるようにするなど、永遠の課題かもしれません。更に知恵を絞る必要がありそうです。因みに、本年は、2019. つながる校友会・ひろがる立命館の「スローガン」のもと100周年記念となるオーラル立命館校友大会が、2019年10月19日(土)に国立京都国際会館で開催されました。

話はいつの間にか校歌、応援歌、寮歌の話題となり、これらの歌を知っているか、歌ったことがあるか、歌う機会はあるか、もつと校歌・応援歌を広める必要があるのではないか、一方で、寮歌の歌詞は全国的にも有名であることなど、大変興味深い話を聞かせてもらうことができました。



第19回九州・沖縄支部総会

余談ながら、校歌は作詞：明本京静／作曲：近衛秀麿／編曲：外山雄三、応援歌は作詞：白井道造／作曲：高橋半、寮歌は作詞／作曲：不詳となっています。

本年の参加者は、(ホテルをバックにした写真左より) 横山正人氏(51年卒)、上田優一氏(51年卒)、森下(44年卒)、立命電友会の川畑良尚事務局長(平成6年卒)、西一郎氏(38年卒)、後藤浩文氏(38年卒)、立命館大学校友会の瀬見英利会長(44年卒)、荒木敏氏(34年卒)の8名でした。

さて、早いもので本会も来年2020年の東京オリンピックの年に20周年を迎えることとなりました。今日まで継続して開催できましたのも初代会長の服部様をはじめ、皆様方のご理解・ご支援の賜物であると深く申し上げます。何か記念行事をと考えておりますが、皆様にお知恵をお借りするともにご協力いただきたくお願い致します。

例年のことながら、会話も弾み、瞬く間に2時間が過ぎ、来年も6月の第2土曜日に開催するかどうかを決めるとともに、再会を約束しつつ閉会、三々五々会場を後にしました。

最後になりましたが、本会の開催にあたり多大のご支援いただきました電友会事務局の皆様には厚くお礼申し上げます。

(昭和44年卒 森下 明憲 記)

理工学部電気工学科
昭和三十七年卒 同窓会を
楽しみました

春は名のみ、花未だしの雲行き
険しい中、去る三月十六日びわこ
草津キャンパス(BKC)エポック
立命21K305号室にて行いま
した。

案内は、前回はがき記載のメー
ルアドレスを併用しました。BKC
では初めてなので、東京、神奈
川、高知、広島など遠方はもとよ
り、参加者全員に向けて、列車や
バスのダイヤをしっかりと届けまし
た。しかし集合場所表示に齟齬が
あり、開始は十五分ほど遅れてし
まりました。

午前中は川畑教授にご講演をお
願いしました。電気電子工学科の
変遷とパワーエレクトロニクスの
重要性を主体に、システムや研究
テーマの例として、双方向絶縁型
DC/DCコンバータ、パルス幅
制御提案等を拝聴しました。それ
に関連研究成果や業界共同研究な
どについてもご紹介頂き、感銘を
受けました。

集合写真撮影・定例式目実施の
後、交流会を始めました。仕出し
料理店出前の二段折詰弁当に、
ビール、オールフリー、お茶を手
にしつつ、二テーブルでの会話も
進みました。

イベントに入り、スクリーンの
卒業写真像で紹介された者に「近
況紹介」を求めました。前回不参
加者から順に十五名全員が、卒業
後の動向も含めて説明し、対話も
あつての賑やかさでした。プログ
ラムの一部を省きつつ、引き続き
ハーモニカ伴奏で替え歌「ボケま

す小唄」合唱や独奏等で楽しく過
ごせました。

構内の広さ、甲子園球場の約十
五倍の整備された構築物の状況・
規模を目にしつつ、ウェストウイ
ングへと移動しました。そして、
川畑教授のご案内で教室や実験室
の姿・実情を見学させて頂きまし
た。電気機器の新しいコントロー
ルシステムが斬新で、衣笠での思
い出との対比でも見る事が出
来ました。

次いでコアステーションへ向か
い、奈良時代の初期製鉄などの木
瓜原遺跡の展示を草津市文化財保
護課の方に説明を受け、その後グ
ラウンド地下に保存された現地の
案内もして頂きました。

この度は、立命電友会を担当さ
れる川畑先生と同事務局の上田さ
らんに諸準備のお世話になったこ
とを深く御礼申し上げます。

次回は来年3月に姫路方面で行
う予定です。
(昭和37年卒 小寺 實 記)



昭和37年卒 同窓会

悟空会 (昭和59年卒)
開催報告

「悟空会」のネーミングは、
我々同窓生が昭和59年3月に卒業
したことを由縁としています。そ
の昭和も終わり、更に平成も終わ
り、令和の始まりとなった今年、
気が付けば、卒業から満35年が経
過し、「アラ還」と呼ばれるお年
頃となりました。

この「悟空会」を設立し、長年
幹事のお世話をして頂いた同窓生
の高山茂氏が本年4月より理工学
部長に就任となりました。同窓生
一同、名譽なこと大いに喜び、
就任祝いを兼ねた同窓会を久しぶ
りに開催する運びとなりました。

令和元年6月1日土曜日の夕方
高山氏を含んだ22名が京都駅前
の「Italian BAR KIMURAYA」に
集い、高山氏への祝辞とそれぞれ
の近況報告を中心に大いに盛り上
がりました。役員に就任した者を
始め長年勤めた会社で頑張ってい
る者が殆どでありますが、会社を
興して社長業に邁進している者、
転職して新天地で活躍している者、
早期退職制度を利用して次の活躍
場所を探している者、同窓生各人
がそれぞれの人生を歩んでおり、
お互い大きな刺激を得ることが出
来ました。

あつという間にお店との約束の
2時間半が過ぎ、京都タワーを
バックに集合写真を撮った(京都
駅前のど真ん中でよく撮ったもん
だと我ながら感心...)後、ほぼ全
員が近くの屋台村に場所を移して
夜遅くまで(記憶が無くなるま
で)語り明かしました。

これまで高山氏に頼りっぱなし
であった幹事役を、今回は小生を
中心に渡辺氏・横井氏等と担いま
した。立命電友会事務局上田様の
多大な御支援を受けたものの、幹
事役の大変さが身に沁み、ただた
だ高山氏へ感謝する次第でありま
した。

まもなく、我々同窓生はそれぞ
れ、人生の大きなターニングポイ
ントを迎え、令和の時代を突き進
んでいきます。同窓生皆さんで喜
びや悩みを分かち合い、更に素晴
らしい人生を歩んでいけるよう、
この「悟空会」をサステイナブル
な同窓会とすべく、微力ながら尽
力していきたいと考えています。
今後は毎年の開催を企画してい
きますので、今回参加叶わなかつ
た同窓生も、是非とも参加頂けれ
ばありがたいです。
(昭和59年卒 山本 拓央 記)



「悟空会」高山茂学部長と共に



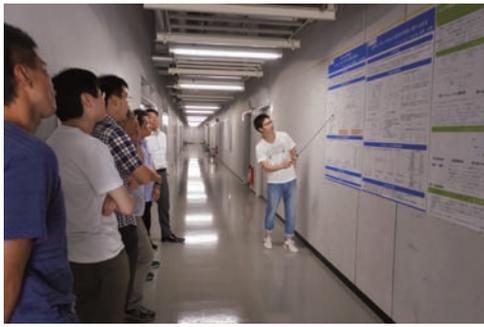
←京都タワーをバックに

川畑研究室
第3回同窓会を開催

2019(令和元)年9月7日
(土)に、川畑研究室の総会・同
窓会を開催しました。川畑研究
室の総会・同窓会は、2016年10
月に第1回目の開催を行い今回で
3回目の開催となりました。

まず、「びわこくさつキャンパ
ス」(以下、BKC)の実験棟
「エクセル1」の1Fにある川畑
研究室にて、4回生によるポス
タープレゼンテーションが立
ち上がった。当時の流れをくむ研究
などもあり、時代の流れを感じつ
つ、懐かしく同時に想いをはせる
ことができました。

その後、総会の前にBKCのグ
ラウンド下にある「木瓜原遺跡」
および、「トリアシア」にある天文
台を見学しました。木瓜原遺跡は
BKCが開設された1994(平
成6)年から有りますが、現役の
学生当時に見学するのは叶わず、
今回初めて見学することができま
した。古代の製鉄がどのようにし
て行われていたか学べる良い機会
となりました。天文台は、大学に
設置される物としては最大級の
60cm反射望遠鏡で、主に天体物理
学の研究に使用されています。見
学当時はまだ屋外が明るい時間帯
だったこともあり、残念ながら天
体を観測することはできませんで
したが、星の動きに対する望遠鏡
の自動追従や撮った画像をPCに
転送して解析する仕組みなどご説
明を頂き、たいへん興味深い見学
会となりました。



川畑研究室 ポスタープレゼン

見学及び総会を終えて、同窓会（懇親会）の会場へ移動。今回は参加者が10人と少数でしたので、南草津駅付近の居酒屋での開催という小ぢんまりとした懇親会となりましたが、現役生・同窓生による近況の報告や瀬見電友会会長との意見交換など、有意義な時間を過ごすことができました。

今回で3回目の開催でしたが、過去の2回と比べると参加者がなかなか集まらなかったということで、同窓生や現役生との交流を活発にするにはどうしたらよいかという大きな課題が残りました。幹事一同、努力がまだまだ足りないと、強く感じております。

最後に、今回同窓会に参加できなかった方々も、次回開催の折には是非とも同窓会に参加頂き、人とのつながりを新しく掴み、交流を深め広げて頂ければ幸いです。（次回の開催は、2021年の春頃を予定しています）

（平成7年卒 威徳井 浩記）



川畑研究室同窓会 木瓜原遺跡 見学

苧屋研究室同窓会

開催のお知らせ

令和元年11月23日（土）13時より京都タワーホテルにおいて、（旧）苧屋研究室の同窓会を開催いたします。

恩師である苧屋公明先生は、多くの優秀な卒業生を輩出され平成24年3月に逝去されました。同じ研究室で、ともに学んだ同窓生、そして年代は異なっても同じDNAを繋いだ同窓生が一堂に会し、年代を超えて集う会にしたいと思います。

折しも、苧屋研究室の同窓である、高山茂先生が平成31年4月から本学理工学部長にご就任されています。お祝いをしたいと思いつつ、是非ご出席ください。

既に同窓生の皆様には電友会を通じてご案内しておりますが、もし、見落とされておられる方がありましたら、今からでも結構ですので電友会事務局にお知らせ下さい。

（発起人 昭和53年卒 宮下 晋哉）

学系だより

高山 茂 教授

理工学部長にご就任

長年に渉り立命電友会事務局長をお願いし今なお本会のためにご尽力いただいている、電気電子工学科教授・高山茂先生は平成31年4月1日付で理工学部長にご就任されました。お忙しい役職と思いますが、本会挙げてご祝詞申し上げます。

平成31年4月吉日
立命電友会 会長 瀬見 英利

令和元年度

電子システム系の主な役職

- 電気電子工学科
学部長 渡邊 歴
- 就職委員 佐野 明秀
- 学部長 福井 正博
- 就職委員 久保 博嗣

【退職】

- 小倉 武
平成31年3月31日 定年退職
- 森本 朗裕
平成31年3月31日 定年退職
- 山崎 勝弘
平成31年3月31日 定年退職
- 【新任】
大倉 俊介
平成31年4月1日
電子情報工学科准教授に着任
- 孟 林
平成31年4月1日
電子情報工学科准教授に着任

電子情報工学科准教授に着任

電子システム系 2018年度表彰者一覧

2019年3月22日の電子システム系卒業・修了祝賀会において、在学期に学業もしくは研究活動を活発に行ってきた学生35名が表彰されました。おめでとうございました。

（五十音順、敬称略）

○学業成績 部門

【学部生】

（最優秀賞）（計2名）

宮川 拓馬（電気電子工学科）

田中 優花（電子情報工学科）

○研究活動 部門

【大学院生】

（最優秀賞）（計9名）

飯盛 寛貴・沖中 宏彰

黒川 祥希・島田 佳奈

下村 和輝・白國 誠也

松本 凌・土田 祥生

（優秀賞）（計12名）

足立 卓哉・大槻 宜久

織田 泰彰・紙徳 直生

櫻井 基成・塩浦 裕文

竹村 真志・東郷 匡宏

野崎 竜平・初田 慎弥

濱島慎ノ介・森野 健太

（優秀賞）（計11名）

白根 健太

入口 昇平・江頭 拓也

久保 哲朗・倉谷 和輝

事務局便り

立命電友会会報53号の発行にあたり、ご寄稿を頂きました皆様に対し心よりお礼を申し上げます。

前回のアンケート結果を受けまして秋号の会報につきまして郵送を希望頂きました方のみ発送をさせて頂きました。皆さまには立命電友会ホームページにてご確認頂きますようお願い申し上げます。

住所及びアドレスの変更等ございましたら、事務局までご連絡頂きますよう、よろしくお願います。WEBからも変更受付ができますのでご利用ください。（上田）

立命電友会 今後の行事予定

- 2020年
立命電友会第8回総会
（開催場所・於びわこ・くさつキャンパス 時期・未定）
 - 2022年
立命電友会創立30周年記念行事
（開催場所・開催時期・未定）
 - 2024年
立命電友会第9回総会
（開催場所・開催時期・未定）
- 決まり次第、メール・WEBにてご案内します。

立命電友会連絡先
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部電子システム系内
立命電友会事務局 川畑良尚

電話：077（561）2662
FAX：077（561）2663
E-mail：den-yu@srtsu.mei.ac.jp
http://rtsu.mei.denyu.ac.jp/

（会報の題字は久保之俊氏）

ご冥福をお祈り申し上げます。